

嬉石松原地区まちづくり協議会 議事要旨

記

- 日時 平成 27 年 3 月 6 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分
- 場所 市役所第 4 庁舎 3 階第 7 会議室
- 次第
 1. 釜石市市長挨拶
 2. 工事進捗状況及びスケジュールについて
 3. 宅地整備基準（案）について
 4. 災害危険区域の指定について
 5. 公開試験盛土の開催結果について
 6. 嬉石漁港海岸防潮堤について
 7. 災害復興公営住宅について
 8. 甲子川水門の進捗状況について
 9. 釜石湾口防波堤の復旧状況について
 10. 意見交換会

各自への宅地引渡しスケジュールは、どの位前に通知があるのか。

→ 今は明言できませんが、可能な限り早く情報提供できるよう検討します。

宅地毎の地盤支持力の調査結果はどのように知らせてくれるのか？また、1 宅地何箇所計るのか。トラブルの原因にならないよう紙で知らせて欲しい。

→ 地盤支持力の調査は、1～2 箇所／宅地の予定です。情報提供の希望がある場合には応えていく予定です。

→ 宅地強度は、一般的な木造住宅が建てる際の基準である 30kN/m²以上、締め固め密度 87%以上の確保を施工基準として整備を進めています。開示方法については、内部で検討した上でお知らせしたいと思います。

消費税増分の住宅部分以外の増分に対する補助などの検討はどこまで進んでいるのか。

→ 復興庁から給付される住まいの復興給付金にて、面積に応じて最大約 90 万円までの給付があります。その他家財などの自力再建補助金額のアップについては、国、県へ更なる拡充の要望を伝えているところです。

宅地の乗り入れ位置等について意見・要望を返送するという通知があったが、突然だった。今後は何かあるのならスケジュールを広報などで知らせて欲しい。

- まず意向調査が唐突であったこととお詫びいたします。松原地区につきましては引渡し時期が早まっています。嬉石地区については多少遅れますが、意向調査を確認しながら乗り入れ位置などを検討していきたいと思っております。今後は余裕を持って皆さんにお知らせできるようにしたいと思います。

問題があつての見直しも1~2ヶ月なら分かるが12ヶ月は遅れすぎである。重機や人を増やして対応できないのか。再建者はスケジュールを見ながら今後の再建予定などを検討している。工事スケジュールは遅れないように努力して頂きたい。

- 皆さんに早くお知らせすべきだったこととお詫びします。皆さんがこのスケジュールで再建を考えていることは重々理解しております。施工業者等と一丸となってスケジュールを守るよう努力していきます。
- 事業について総論賛成ではあったものの各論に進んだ段階で補償交渉が難航し、国道の切回しに影響が出てしまいました。遅れを取り戻せるよう頑張っていきますので、今後ともご協力お願いいたします。(若崎副市長)

艦砲射撃の不発弾についての調査どうなっているのか。

- 地盤改良や三陸鉄道補強工事に伴う矢板の打ち込み箇所では、磁気探査を実施し安全を確認した上で工事を進めています。

ごん太付近の防空壕があった箇所に着弾の履歴があるはずだが、不発弾処理したとは聞いておらず不安を抱えている。嵩上げするときに調査して欲しい。

- 具体的な箇所について後でヒアリングさせてください。不発弾調査の概要は、当時打ち込まれた速度や角度などのデータを基にどのくらい深く地中に埋まっているかを算出して、その深度まで調査をします。東部地区も同様です。

災害復興公営住宅について、日照権の問題は生じないか。

- 建築基準法に基づき整備を進めることで、日照についても基準に照らし合わせて問題ないように整備を進めています。

松原町から国道283号の乗り入れ市道の3箇所の具体的な出入り口と、供用時期はいつ頃か。

- 道路を作る際に、警察と交差点協議をします。出入りの基準が設けられていて、それに添った入り口になっています。国道283号は3月15日に開通です。夏頃に国道45号も含めて全線開通します。国道283号の接続市道については、10月ごろの整備完了を目指しています。

災害復興公営住宅については、入居予定者に図面を提示して、意見を聴いてからから本設計はしないのか。楽しく住みやすい復興住宅にするために必要ではないか。

→ 県営の災害復興公営住宅は大まかに3タイプの標準的な間取りのものを採用しています。県ホームページにて確認できます。

聞いているのは間取りではなく、全体の住宅の配置図のこと。集会場の配置や出入口、エレベーターの位置などについて。

→ 建物の配置も敷地の形や大きさによって概ね決まってしまう。建築基準法に基づき現在検討中ですが、できるだけ期待に添えるようにはしたいと思っています。他の団地ではワークショップを開催していますが、今のところ県の標準プランに添った形で設計を進めています。

→ 平田では入居後に使い勝手の面で要望がありました。入居者も決まっていますが、岩手県には事前にワークショップを開くことをご検討いただきたい。(若崎副市長)

震災前にあった市営コミュニティ住宅は口の字型で中庭があった。そういうことは検討しているのか。ただの羅列的な横長のものなのか。

→ 具体的な配置についてはまだ図面化されていない状況です。方向が決定すればお示しすることができるかと思います。

→ 岩手県には、入居者も新しいコミュニティを作るため、集まりやすい空間づくりを望んでいるということを設計に反映していただきたいと思います。(若崎副市長)

→ 担当へ話をしたいと思います。

湾口防波堤の裏側での漁をしているが、いくら重量があっても支えがない構造は駄目だと思う。自然の力を甘く見てはいけない。高架橋の側に造ってある防潮堤も心もとない。足元の地盤強度や受け流す設計思想が非常に大事である。

→ 防波堤・防潮堤ともに 3.11 の教訓を反省し、専門家が粘り強い構造計算をしているので、今回は心配要らないと考えます。ただ、それ以上の津波が来ることは否定できません。今日は詳しい説明は省きますが、機会があれば説明していただきます。

復興工事は、スケジュール管理が重要であると十分に認識して進めています。これまでは地権者の合意で遅れが生じました。これが解消された今後も材料不足による遅れなど、物理的な工事の遅れが生じる可能性はあります。昨日、業者等が集まり、色々な課題を出して対応策を相談しました。平成 27 年度は復興の重要な年です。スケジュール管理を徹底していきますが、やむを得ない理由から遅れが生じた場合、早めに情報提供しますのでご理解いただきたいと思います。

自力再建のことも難しいですがお願いはしています。連絡不足や個々の状況な

どの問題も努力していきたいと思います。まだ予定を決めていない方にも声をかけて進めいきたいと思います。もうしばらく頑張ってください、共に復興に向けていきたいと思います。(野田市長)